

# 被虐待体験からの再生と成長を支える諸要因についての実証的研究 ～児童養護施設入所経験者へのインタビュー調査を通して～

国分 美希  
(児童養護施設 至誠学園)

## <要旨>

本研究は、被虐待体験や家族の様々な問題で家庭から分離され、子ども時代を施設という養育環境に身を置いた児童養護施設入所経験者を対象に、5～6年前に実施した入所中のインタビュー調査を成人した同じ対象者にフォローアップ調査として実施。施設での生活をどのように受けとめ、何を拠り所としていたのか、彼らの成長に影響を与えた心理的援助の諸要因を数年前の結果を元に「こころの居場所」を見出す要因として考察した。

その結果、実親との間で十分に築くことのできなかった大人への基本的信頼感を取り戻し、「こころの居場所」を確保していくためには、施設の日常生活の営みの中で、①施設の生活の中に安心して身を置ける場所や物が存在すること、②ありのままを出せる信頼できる職員との出会い、③自分の時間を活用し、充実感を味わえる体験、④自分の出自・家族の情報がある程度、現実として受けとめられることの4つの要因が絡み合い、個々の子どもの成長段階に応じて獲得されていくことで、自分なりの生き方を見出していけることが考察された。そして、それを支える大人のあり方を青年たちは強く希求していた。

## <キーワード>

居場所 拠りどころ 再生 聴き入る 大人のあり方

### 【はじめに】

現在の児童養護施設には、親の死別や貧困、置き去りなどによる入所から、親自身の被虐待体験や精神疾患、アルコール・薬物依存などによる離婚、家庭崩壊、児童虐待と不適切な養育や被虐待体験を有する子どもが増大し、施設の養育環境により心理治療的な視点・援助が求められている。また、これまでの各種の研究からもこのような養育環境で育った子どもの感情コントロールの脆弱さ、対人関係上の歪みが逸脱行動として表面化し、施設や学校生活への適応を難しくさせている現状が報告されている。彼らが抱える不安定さは、不適切な養育環境や家族からの分離・喪失体験が人への基本的信頼感や愛着形成に様々な傷つきや乳幼児期の心身の発達課題を未解決のまま抱えていること、また「自分はなぜ施設で生活しなければならないのか?」「家族は自分をどのように思っているのか?」などの子どもの問いかけからも、自分の存在の不確かさと受け入れてくれる確かな愛着対象の希求などに起因すると推測される。親と離れて暮らすことは子どもにとって極めて危機

的な状況であり、加えて、直接間接的に親からの被虐待体験は、子どもの心の深い傷となり、情緒・行動面、人格形成に深く影響を及ぼしていく。自分の存在に揺らぎを抱えた被虐待の子ども達の成長発達には、心理的に「育ち直す」という体験が必要といわれる。また、自分の出自や家族像の曖昧さは、更なる不安定さを生んでいる。

このような重い心理的課題を抱えた子ども達へ、「心理治療」は必要であるが、カウンセリングやプレイセラピーなどの心理療法もさりながら、子どもにとって、大人に愛され、護られていると実感できる構造化された生活環境の確保や信頼できる大人との出会いが、信頼と安心を脅かされた子どもにとっては安全基地としての役割に繋がり、心の拠り所となっていることが、筆者が数年前に実施した調査からも窺える。

本研究では、日常生活という環境そのものを、子どもの心の再生に治療的に活用していき、心の拠り所となる「居場所」を獲得していくためには、どのような援助が必要なのかを、施設で

育った青年達の声聴くためのインタビュー調査を再実施し、心理治療的援助の諸要因を研究していった。また、児童養護施設に入所を余儀なくされる子ども達にとって、自分の出自・家族の情報、なぜ施設で生活をするのかという疑問は、自分の存在の確認（アイデンティティの形成）であり、家族イメージに繋がっている。自分の現実を受けとめ、現在の生活を意味のあるものとするか、生きる目標探しに影響を及ぼしていく。触れずらい課題にどのような援助ができるのか、考察の一項目としたい。

### 【研究方法】

1) 児童養護施設（筆者の勤務施設）に入所経験のある青年期（17歳～35歳位を想定）の人達を対象に、①これまでの生活で心に残っているできごと、②考えや行動に影響を与えた人、③施設の生活で良かったこと、大変だったこと、④出自・施設入所の理由等へのインフォームド・コンセントのあり方、⑤施設職員について、⑥現在の生活の満足度等についてのインタビュー調査を同じ対象者に再実施。数年後を経て、社会生活への適応、変わったもの、変わらざるものの要因を比較検討分析した。

（前回調査協力者 25 名中、12 名が再協力承諾、新たに 3 名追加 合計 15 名）

また、調査依頼前に、対象者の現況情報を集め、現在の安定度に応じて手紙、電話での連絡方法を選択していった。インタビューは、各対象者の希望に応じて場所を選択、食事を共にしながら、前回の個々のインタビュー概要の記録を渡し、質問項目を説明、答えられる項目のみの話を聴かせてもらうことにした。また、聴き手の心構えとして、伝えられたことを伝えられたものとして受けとる（土居健郎 1977）基本姿勢をもとに、この時間が対象者にとっても自分の体験を少しでも肯定的に受けとめられるよう、聴き入る姿勢に専心した。

2) 施設職員へ、子どもの出自・家族情報の伝え方等、インフォームド・コンセントのあり方への自由記述のアンケート調査を実施した。東京都内の児童養護施設職員 70 名に郵送。11 名の方の回答を得た。（回収率 15%）→回収率の低さからも調査の内容、形式を見直し、今後の再調査を検討したい。

### 【インタビュー調査結果】

#### 1. インタビュー調査対象青年の概要

##### ①第1回・2回協力承諾者 12名

	項目	女	男
第1回時年齢	中学生	2	4
	高校生	4	2
第2回時年齢	18-20歳	1	2
	21-25歳	5	4
措置理由	親の病気(精神疾患等)	2	1
	置き去り(未婚出産)	2	3
	虐待	2	2
在園年数	1-5年	2	1
	6-10年	1	0
	11-15年	3	4
	16-18年	0	1
学歴	高校卒業	5	4
	高校中退	1	2
進路(退所時)	就職(正社員)	0	4
	アルバイト等	2	0
	進学就労	3	2
	その他	1	0
退所年数	1-2年	1	1
	3-5年	5	4
	6年以上	0	1

##### ② 第2回調査協力を得られなかった対象者の現状 13名

- a. 居所不明 3名
- b. 連絡を入れず 4名  
(生活状況不安定のため)
- c. 断りの返答 3名
- d. 承諾→日程調整合わず 3名

今回、調査協力を得られなかった青年達の現状は、情報収集の段階で連絡を取ることを躊躇わせたケースも多い。過去を振り返る内的体験へのアプローチは、その人の時が熟していることが求められる。今後、状況が好転した折のフォローアップが可能であれば調査協力を依頼していきたい。

## 2. インタビュー調査内容事例報告

今回の比較調査は、入所中の質問項目とほぼ同じ質問をする形を取り、一人ひとりの青年達が語る内容に、どのような変化があったのか、その成長変容にはどのような要因が考えられるのかを考察することを目的としている。数字や統計では表しにくい変化であるため、一人の青年のインタビュー事例の比較を紹介する。

### (1) 対象者概要 19歳男性 (在園7年)

小学5年時、被虐待児として入所。高校卒業まで施設で過ごす。小学校入学前に両親離婚。その後、親権者である母親が精神的に不安定となり、家の中は足の踏み場もないほどの乱雑状態。時折、父親が様子を見に訪問していたという。小2頃までは登校していたが、次第に断続的に休む事が多くなり、小4以降、不登校状態が続き、学校教師より児童相談所に相談があり、施設措置となる。小柄で痩せ型。喘息発作があり、運動が苦手で外遊びも少なかったのもあろう顔色も青白い。大人に対し、人懐っこく親密な関係を求めたかと思うと、さっと敬語になり、距離を取ろうとする。年齢よりはるかに幼い印象を受ける。児童相談所の心理判定では、基本的な能力は平均値内と推定されるが、学習の積み上げのなさ、経験不足から、IQは境界級と診断された。

施設入所後は、集団への適応は時間がかかるであろうこと、大人の手が充分にかけられるように小グループでの養育の場であるグループホームでの生活に入れる。母親の病気を心配するが、家の話、両親についての話題になるとふざけた調子で話をそらす。時折、来園する父親は彼には厳しい躰をしていたという。情緒的にも子どもが関係性を取りにくいであろうと思える父親。母親はそんな彼を可愛そうに思い溺愛に近い育て方をしている。情緒的な安定性には欠けているが、彼の母子手帳は5歳まで母親の手で細かく記帳されている。心配された学校も、時折体調が悪いと休むこともあるが、友人もでき何とか適応。家ではゲームボーイ、ファミコンが唯一の遊び相手であったため、鞆にはゲームのカセット、小学生が夢中になっているゲームカードが離せない。また学校で配られた学習プリントが捨てずに束になって、鞆、机の中にしまわれている。勉強の遅れは著しい。長期の休みには、実家で療養中の母親の元へ帰省。2ヶ月に1回ほど父親との外出。両親との交互の交流は継続する。

### (2) 第1回インタビュー調査概要

中学2年生時実施 (在園2年半経過)

- ① 今までに、あなたに影響を与えた人や、大事な人はどんな人ですか？できればその理由も聞かせてください。  
いません。(大事な人は)両親でしょ(ちょっと考えて)。当然ですよ。
- ② 学園の生活の中で、心に残っていることはどのようなことですか？
  - a. 良い意味で  
・ただで何でも食べれて嬉しい。お小遣いもこんなにもらえて嬉しいです。
  - b. 悪い意味で  
・野球の練習。やり過ぎ、もうちょっと優しくしないで。野球は大嫌いですね。
- ③ 学園の生活の中で、あなたにとって大変だった事は、悩んだ事、困った事はどんな事でしたか？(いつ、どんな状況で)  
言いたくありません。
- ④ そんな時、誰に相談しようと思いましたか？  
誰にも話さない。自分の胸に秘めておく。苦しくなっても我慢。言ったからといってどうなるんですか？変わらないですよ。
- ⑤ どうして学園で生活するのか、説明を受けたことがありましたか？それはいつ、どこで、誰からでしたか？  
よく覚えてませんが、たぶんお母さんか〇お兄さん(担当職員)からですね。ここに来うしてなあ。その辺は記憶がありません。
- ⑥ それを聞いて、どのように思いましたか？  
あたりまえでしょ、しょうがないじゃあないのって感じですかね。
- ⑦ 学園で生活する中で、あなたがもっと知りたい事、聞かせて欲しい事、教えて欲しい事があったら、聞かせて下さい。それは、いつ頃、誰から聞かせて、教えて欲しいですか？特に家族のことについて知りたいことはありますか  
学園の借金についてですかね。(冗談のようで、本気か、図りかねる言い方)だって、高校とか行かせてもらえるんですか、借金があったら行けなくなるじゃあないですか。  
大人は、年齢や給料について隠して教えてくれないじゃあないですか？
- ⑧ 学園で生活する上で、どのようなことを大事にして欲しいですか？  
(例えば環境、ルール、権利など)  
お金を大事にして欲しい。こんなに立派な建物を作らなくてもいいじゃあないですか。(と言いながらも)一人部屋を作って欲しいですね。鍵のかかる部屋、誰かに入れないように。夜遅くまで騒がないで欲しい。
- ⑨ 学園では、大人のことを「お兄さん」「お姉さん」と呼んでいますが、あなたはどのように呼びたいですか？その理由もできれば聞かせて下さい  
お兄さん、お姉さんでいいですよ。年がいつている人をお兄さん、お姉さんはおかしいですよ。〇〇さんでいいんじゃないですか。(あなたは、なんて呼びたい)面倒くさいから、今のままでいいですよ。一回覚えてしまったから。
- ⑩ 学園の大人の言葉や態度や人柄でどのようなことが残っていますか？(いつ、どんな状況で)ありません。

- ⑩どんな大人に職員になって欲しいですか？  
クリントン大統領みたいな人。優しそうだから。面白い人、Mr. ビーンみたいな人。面白いことがないと全員暗くて死んじゃいますよ。
- ⑪学園の大人にどんなことを期待・希望しますか？  
一人部屋を作って欲しい。お小遣いをもう少し増やして(3200円位かな)。
- ⑫学園を出て行くまでに、これからどんな事をしたいですか？  
(高校を卒業するまでに)ありません。やりたいことはありません。
- ⑬どんな大人になりたいですか？  
言いたくありません。
- ⑭将来、どんな仕事をしたいですか？  
今の所ありません。

### (第1回目のインタビューの考察)

インタビューの申し入れに1回目は、「何ですか？それは、嫌ですよ。いいですよ。」との反応。1週間程して、また来室。「またですか。しつこいですよ。」と同じ答え。暫く雑談後「そんなの聞いてどうするんですか？」との質問。学園の生活が子どもにとって安心できる場所なのか、確かめたいからと説明。「ふうん、まあ仕方ないですね。でも今日はだめです。」と次回を約束。当日、時間には来室。インタビュー開始前、暫くチックが見られるが、無理に答えなくて良いこと、答えても良いと思う事だけ答えてくれれば良いことを説明する。「大事な人とは？」の質問に暫く考え込み「両親でしょ。当然ですよ。」と自分に言い聞かせるような返答。両親の諍い、安心して甘え、頼れる存在ではなかったであろう両親をどのように位置付けるのか？一瞬の間は彼のそんな逡巡を表していたのだろうか？

終始、自分の気持ちに触れるような質問には、チック症状表れ、敬語になったり、「ありません」との答え。言いたくなかったら、そう言ってと伝えると、「言いたくありません」との答えが増える。」今の安定がいつまで続くのか、自分はここにいる人達を信頼していいのか、との不安な思いが伝わってくる。30分程で質問項目が終わると、未だ話し足りない雰囲気。(学園の生活でいろいろ経験できるといいね。自分の胸で治まらない事があれば、誰かに話すと少し気持ちが軽くなるよ)と伝える。一瞬、筆者の目を凝視。「そんな事あるわけないじゃあないですか」との返答。(そうか。もしできたらね。)彼にとって未だ、どこにも安心できる場所が見出せないのであろう心情が汲み取れるインタビューであったが、終了後、ふと筆者の傍に寄って来て「じゃあね」と笑って肩を叩いて出て行く。

友達との交遊の中で、自分の力を試し、世界を広げていくはずの時期を逸した彼にとって、頼

みとする両親の存在は心もとない。未だ、同年齢の子どもと悩みを共有できるような関係は取れず、職員の後を追っているが、中2になった現在、嫌いだった野球の練習に黙々と取り組む姿や中学生同士の雑談に傍らでそっと聞いている姿が見られた。少しづつではあるが、自分の可能性を見出そうとしている彼に、様々な体験が成功体験となるような大人や仲間の援助が期待された。

### (3) 第2回インタビュー調査概要(19歳時実施) 高校卒業後、食品製造の仕事に従事(退所後、1年8ヶ月経過)

#### ①これまでの生活で、特に印象に残っていること

##### a. 良かったこと

卒園式。学園の生活は長かったけど、今は早かったと思います。出ると時(卒園)まだ居たいなと思いました。最後は本当に良かったですよ。日常の生活が良かったですから。今、一人になって寂しくなりますよ。ご飯がおいしかったし、栄養バランスも良かったですから。

##### b. 大変だったこと

(退所後)学園の生活とのギャップですかね。たくさん居た人が一人になる。やっていけるのか不安ですよ。時間が経つのが早く感じますね。このまま年とっていくのかな。卒園するまでに、みんな相談できる人を作ったほうがいいですよ。

#### ②施設の生活で印象に残っていること

##### a. 良い意味で

ご飯がおいしかった。行事が充実していましたね。特に勝浦(学園所有の海の家)ですね。海には入らなかったけど、海の開放感。環境が変わるし、時間に追われないのが良かったですね。それと横田(ベース)で、でっかい肉を食べられたことですね。

##### b. 悪い意味で

来た頃(学園に)は、長いなあ、早く出たいな(みんなも)硬い感じ、雰囲気も重い感じだったし。人との関わりあいですかね。

#### ③これまでの生活であなたの考えや行動に影響を与えた人とその理由。

##### a. 良い意味で

○兄(入所時担当) 成長する上で大切なことを教えてくれました。担当ではなくなった後も、会った時には心配してくれたし。

△兄(高校時担当) 明るい性格。オーラがありました。自立する上で大変だからと、アルバイトをさせられたり、その後の人生について説教もしてくれましたし。(以前に△兄のようにになりたいと思いますと言っていたことを取り上げると)困ったことがあったら全力で助けてくれました。○君(同じホームの高校生)が怒ってお兄さんに暴力を振るった時、黙って叩かれてるのを見たんですよ。体を張って気持ちを受けとめてるって感じで、すごい人だと思いました。学園の職員は、子どものことを良く考えてくれているんだと思いました。

□姉（入所時の担当） 中3で入院した時（2～3日）  
□姉がお見舞いに来てくれて、名刺に写真を貼ってくれたんですよ。今でも持ってますよ。自分でも（何故持っているのか）分からないけどなんか安心感ですかね。

◇姉（高校時担当） 日常の小さな相談ですね。大事でした。

高校は良かったですね。3年間皆勤しましたから。39度あっても行きました。習慣ですね。学費は高かったけど、得たものは大きかったですね。特に1、2年の担任が良かったですよ。先生が熱いし、一人ひとりのことを考えて、えー、そこまでやるのって思いました。尊敬ですよ。卒業式は泣いちゃいました。ああ、もう終わっちゃうって。小学校や中学校の時は、ああ、これから心配だと思わなかったですからね。

b. 悪い意味で

嫌なことも辛いこともあったけど、それがあったから今があるんだと思います。

④施設で生活することをどのように受けとめていたか、だれかに説明してもらったか

家は生活環境が悪かったですね。子どもに良くない環境でした。生活習慣が不規則だったし。突然、学校から帰ったら、センターに行きますからって連れて行かれて。お母さんはどうなるんだろうって……。やっぱ、大切ですから。もっと子どもに分かりやすく話して欲しいですね。

⑤家族についてどのように受けとめていたか、知っていたこと

お母さんは、大切な人ですよ。優しいし、高校入試の面接時、わざわざ遠くから来てくれたんですよ。妹は、素直じゃないけど、大切な人ですね。お父さんは、あまり覚えていないですね。叔父さん（母方）は大切です。いなきや困るし。学園にいる時、普通の生活をしていたらどうなっていたかなって考えたこともあるけど、今はこれで良かったって思います。

⑥家族の情報について説明してもらったことはありますか（いつ頃、だれから、どのように）

前に、福祉の人（児相）からですかね。でも、段々考えなくなったかな。不安になるし。

⑦施設で暮らす理由や家族のことについて、説明してもらうことは必要だと思いますか？

必要ですよ。いきなり、ポンと施設に入れられて不安だったし、離れたたくなくて離れた人もいるだろうし。絶対心配しますよ。自分は、一番に母の病気がいつ頃治るのか、いつ頃出られるのか。聞いたらすぐ答えてくれるとか。

⑧学園を離れてみて、学園の生活で役に立ったことはどのようなことですか？逆に身につけておけば良かったと思うことはありますか？

（役に立ったこと）お金の管理や使い方 「使うときには考えましょう。今が必要か、そうでないか」 △兄や学校でいつも言われてましたから。

⑨施設の職員について（大人のモデルとして）

a. あなたにとっては、どんな存在でしたか？

絶対にいなきやいけないもの。しつこいぐらい心配してくれたし、逆に嬉しいですよ。

b. 態度や人柄で印象に残っていること

△兄が「卒園してもいつでもおいで」って言ってくれて、自分の居場所を確保してくれる、常に作っておいてくれるというか、〇〇（生活していたホーム）は安心できる場所ですね。

c. 良い職員、悪い職員とは？

職員もいい所、悪い所があっていい。完璧でなくていいんです。（嫌いな物）「これ食べたくない」とか言っているし。

社会に出ても今までのような付き合いができる人ですかね。

d. 学園の生活で大事にして欲しいことは？

時間を大切に。バイトはやらせたほうがいいですね。社会経験になるし、学園からすぐ出されても適応できないですから。日常生活で役にたつこととか、節約の仕方とか。

⑩現在の生活は

まあ満足している。お金もたくさん入るし、職場も生活場所もいいし、特に問題はありせん。一人でいる時、学園のことを考えちゃうんですよ。学園は良かったですよ。

⑪その他なんでも

集団生活楽しかった。日常生活のトランプとか遊んだこととか。見えない何かで繋がれている感じですね。

（第2回目のインタビューの考察）

インタビューを電話で申し入れた折には、早く承諾。仕事を終えた平日、本人の希望で施設周辺の駅で待ち合わせ。夕食をレストランで取りながら話を聴く。終始、にこやかに2時間ほどのインタビューでの話振りからは、以前のような緊張、防衛は感じられず、これまでの施設の生活を生き生きとした表情で話していたのが印象的。

高校入学時に、入所時の担当職員の退職もあり、他のグループホームに移動する。そこでの男性の担当職員への信頼感の深さが随所に感じられた。また、高校も彼の能力に見合った選択となり、1年の時から、生徒会活動やクラブ活動に自ら参加。高校2年時に母親が突然の病死となったが、叔父や職員との関係がしっかり築かれていた時期でもあったため、大きく崩れることもなく乗り越えられる。

今回の調査でも家族のことには触れられないかと危惧したが、彼なりの言葉で、思いを語ってくれたことに成長を感じた。

中学生の頃の話は、30分位で終わってしまったことを伝えると、「前は、大人を信用してませんでしたからね。今は学園で生活してよかったですよ」（そんな風に思えるようになったのは？）「う～ん、日々の積み重ねかな。心が成長したんですよ。見えない何かで繋がっている感じですから」と最後に一言。心に残る言葉となる。

3. 第1回・2回インタビュー対象者の調査項目による比較

初回面接時 年齢 (在園年数)	措置理由 (入所時年齢)	入所後の課題	預かる人間関係	出自・施設で暮らす理由 の理解・整理	退所後自立形態 年齢/家/生活場所	第2回面接時 年齢 退所後の期間	社会生活への適応 本人満足度 ケアの適応状況	預かる人間関係	退所後の家族とのエビ ド	その他のエビド											
A 高1女子 (14年)	置き去り (乳児院→2歳)	無気力 非行	希薄	未	18歳(高卒) 就職 自立援助ホーム	19歳 (1年10ヶ月)	まあ満足 就労・生活安定	入所時/高校時 担当職員	母親の死 出自の繰り返し、	高校生活の充実(皆勤・ 仲間関係の広がり)											
											高2女子 (1年4ヶ月)	置き去り (乳児院→施設→里親 →高1)	不登校 自傷行為	前施設の職員	未	20歳(高校中退) 生保受給 アルバイト	23歳 (3年4ヶ月)	まあ満足 構はきながらも少し落 ち着く	高校時担当職員 学校の友人 福祉/医療関係者	家族からの金銭援助要 求 →援助→拒否(職場の上 司の支援)	自傷行為で入退院の繰 り返し、施設職員との 繋がりが、福祉・医療関 係者のサポート
											高1男子 (11年3ヶ月)	置き去り (乳児院→2歳)	暴力・非行	小学6年時担当職員(女) 中学友人	家族関係・施設入所理 由の整理 (小6時)	17歳(高校中退) 就職 アルバイト	20歳 (3年9ヶ月)	まあ満足 就労・生活安定	施設の仲間 施設の職員 施設の上司	家族からの金銭援助要 求 →援助→拒否(職場の上 司の支援)	自分なりに自由な時 間、納得いく進路選択 就職の上司の理解
B 中2男子 (12年8ヶ月)	置き去り (乳児院→2歳)	盗み	小学5-6年時担当職員 (男) 中学友人	未	18歳(高卒) 大学進学/アルバイト 施設内フタケテテテ	21歳 (3年3ヶ月)	まあ満足 学校少し不安定	施設の仲間 施設職員 高校の友人	父親の消息不明 →連絡放置	出自の未整理 背伸びした進路選択											
											中2女子 (3年)	虐待 P (小5)	無気力 人間関係	希薄	未	18歳(高卒) 専門学校進学/アルバイ ト 施設内フタケテテテ	20歳 (2年9ヶ月)	まあ満足 学校・生活安定	施設の仲間 高校時担当職員/その 他の職員	出自の整理 祖父祖母訪問 親との和解 →卒業後、家族との生活	専門学校での進路と卒業
C 高1女子 (10年7ヶ月)	母の入院 (6歳)	心身の不調	祖母・父 小6-中2担当職員(女) 中学の友人	ある程度 中2時より親の病気に 関心、説明、訪問→適 度な距離(高校時)	20歳(定時制3年) アルバイト アルバイト	23歳 (3年4ヶ月)	まあ満足 就労・生活やや不安定	高校時担当職員 施設の仲間	祖母の死、父親の失踪	高校中退、再受験											
											高3男子 (11年3ヶ月)	虐待 P N (小2)	多動・暴力 学力遅滞	入所時からの原母 セラピスト 高校の先生 施設の年輩児	ある程度 父との関係整理少し皆 定的なイメージ	19歳(高卒) 就職 通学寮	25歳 (4年6ヶ月)	まあ満足 就労・生活不安定	施設の仲間 施設職員 福祉関係者	父親の死、親族との交流 →親族からの拒否	

初回面接時の生活状況によるグループ分け A:混乱気味 B:ある程度安定 C:それなりに安定  
虐待分類: N(ネグレクト) P(身体的)

#### 4. 「居場所」を見出す要因

インタビュー内容から、拠り所となる居場所を見出し、成長変容を促進したと思われる心理的援助、要因として、次の4つの要素に分類された。

##### ①空間的要素（自分の暮らしていく場所—空間的居場所）

###### a. 施設の生活

食事、団欒 → 味覚（おいしかった）、作ってくれた人への思い、誕生日メニューなど

スポーツ活動 → 自信、仲間との協調

施設内の好きな空間（ホーム、自分のベッド、事務所、犬小屋等） → 安らぎ

###### b. 退所後の生活

自分の住まい（アパート、一人の自由な部屋）

趣味活動（スポーツ、音楽など）

##### ②人間関係の要素（縦の関係—小さい時の関係がない）

施設内の職員で核となる人間への信頼感が芽生えることによって、他の大人や仲間関係が広がっている。仲間関係が築かれていくことで、交遊、学校等、社会との繋がりが生まれ、様々な体験がより意味のあるものとなっている。

\*血縁関係のない人間関係の網の目の中で拠り所となる心の居場所を見出す要因

→「困ったことがあったら、全力で助けてくれる」「○○姉、兄（職員）みたいになりたいな」「個人と個人、しっかり向きあってくれた」「子どもの気持ちを分かってくれる」

##### ③時間的要素（時間を自分のものにできた子ども→趣味、学校、仕事）

###### a. 施設の生活

高校生活の充実感（登校状況、クラブ・趣味活動、進路選択など）

アルバイトの充実感（就労状況、人間関係、貯蓄）

仲間との交友（自由な時間・遊び）

###### b. 退所後の生活

仕事への充実感（仕事への意欲・自信）

学校生活（専門学校・大学）の充実感（新たな技術・知識の習得、登校と生活の両立）

\*委ねられた時間であるが、人の中であって自分の特徴や個性を活かすことが可能になる。

→自分の時間として動くことができる。自分で自分の時間を管理できるようになった子どもは安定、適応していく。

##### ④自分の出自・家族情報の確認

友人や社会に出て説明できる家族情報の獲得・説明を在園時に求める声が多く聞かれた。家族の情報を知りたくない子どもはいないとはっきり断言した青年は、「ただ、あまりいい話はないと思うから・・・。聞くのは怖いし、不安は大きい。でも、それに大人は気づいて欲しい。」との言葉に代弁される。

伝える時期については、知りたい時に、できればその時点で子どもの年齢に応じた説明をして欲しい、或いは卒業などの節目で等

\*施設での生活を友人に説明できるか → 自分の現実を受け入れ、ここからやり始めようと思える覚悟→生きる目標探し

##### （考察）

本来育つべき家庭からはじき出され、重い心理的課題を抱えた子どもの心の再生と成長に、施設の集団養育という環境を治療的に機能させていくためには、村瀬（2003）の言うように、退行と成長促進を含む重層的アプローチや良き父母イメージ、家族イメージの獲得が必要とされる。今回の調査を通し、成人した青年達が自分なりの「こころの居場所」を見出していく過程には、空間的要素・人間関係の要素・時間的要素の3本の柱が相互に有機的に絡み合っている。とりわけ、前回同様、信頼できる大人との出会いの有無は、キーワードとなっている。日々の生活の中で見えてくる大人の言動を、子ども達の心は、しっかり捉えていることが分かる。「心に残っていなければ（響いていなければ）意味がないでしょう」「心を開ける場所が必要。それには、この人ならと思える人がいることが大事」「（子どもの悪い行動に対して）見逃す奴もいれば、甘やかす奴もいる。見逃すなら最後まで責任をもってケアしろ。個人と個人、向き合わなければいけないのだから」「食事の配慮とかしてくれていたことに感謝だよ」「何でもかんでもやってくれるわけではないけど、やってと言わなくても気づいて、いろいろ助けてくれた」との言葉からは、どのような大人であれば、子どもは心を開くのか、信頼を寄せるのか、「大人のあり方」「援助者の質」が問われているのは、変わらぬ課題である。

また、退所後の自立生活故か、乳幼児期の愛着形成に躓きの多い子ども達故か、食に関する話が多く聞かれたことは印象に残った。食を通しての大人の思いや人との交わり、自

分のためだけに用意された誕生日の料理、安定した生活の中で初めて味わった料理の美味しさ、入所前の生きるために食べる生活からは、なかなか得られない、五感を研ぎ澄ましながらの食を楽しむという体験であり、生活への安心感の源の一つとも言えると思われた。

退所後の生活には、様々な苦難も訪れる。就職の躓き、家族の死、一人暮らしの孤独感などから、社会の中での所属場所や人間関係に居場所が定まらない青年は、自我の脆弱さを露呈し、不安定に陥っていくが、今回のインタビューを受けてくれた青年達は、そのような苦難も自力で乗り越えられる「人との繋がる力」を感じる。それを可能にした要因には、これまでの生活の中に、安心して相談できる人間関係が持っているかに差が表れていた。特に施設の職員との繋がりは、退所後の生活で出くわす家族の問題、結婚など彼らの出自に関わる問題をどのように受けとめていくか、解決していく過程で、青年達に安心感を与えている。

2時間余に渡るインタビューを終えたある青年に、中学生の頃の話は30分もかからなかったことを告げると、「前は大人を信用してなかったですからね。今は、学園で生活して良かったと思います。」そんなふうに思えるようになったのは？「う～ん、日々の積み重ねかな。見えない何かで繋がってる感じ」

B. ベッテルハイム(1955)のもとで、育ち直り巣立った青年が、「今の君をあらしめるために役立ったことは何か」と問われ、「ちょっとした出来事、何気ない日々の積み重ねと時間」と応えた言葉が思い起こされた。前回の調査でも、安定した生活を営んでいる退園した青年達からは、職員について思うことは？の問いに「精神的な繋がりがかな」「困った時に頼りに思うのは、学園の職員かな」「不思議な存在。心の繋がりがある」との言葉とも重なる。

子ども時代に育まれるべき父母像、家族像のイメージは、その後の人間関係や生活に大きく影響する。彼らのインタビューからは、少なからず、関わる職員との日々の暮らしのやり取りが、男性として、女性としてのモデルの獲得や父母のイメージの獲得に繋がりを、精神的成長の変容に影響を及ぼしていることが窺える。

児童養護施設に入所せざるを得ない子ども達は、広義ではネグレクト状態に置かれた体験を持ち、入所後の子どもの話からは数々の

被虐待体験を有していたことを知らされる。愛され、保護されるべき親から、被虐待体験という心に大きな痛手を受けただけでなく、自分の育つべき家庭さえも失った子どもにとって、心身の成長を育む安心できる物理的・心理的居場所とは、どのようなものなのか？そして、それはどのように子どもの心に根付いていくのか、今回の調査で考察された要因を施設の養育環境に活かしていきたい。

また、子どもの出自・家族情報へのインフォード・コンセントのあり方に関しての施設職員へのアンケート調査は、回答率は低かったが、答えて下さった職員の方の真摯な姿勢が伝わってくる回答が多かった。考察までには至らなかったが、施設の子どもの被虐待体験をもつ子どもの援助には、避けては通れない課題であるため、今後も形を変えて研究をつづけていきたい。

#### 【終わりに】

今回の調査は、15事例と限られたものであり、「こころの居場所」という視点での考察にとどまったが、一人ひとりの青年達が、淡々と静かに語ってくれた話からは、心に深い痛みを抱え、人を信頼することさえためらっていた子ども達が、自分の子ども時代にも肯定的に捉えることのできる一面があったことを、自分の成長と認め、素直に感謝の気持ちを表していたことに、子どもの援助のあり方に一筋の光が見出せたように思う。

人は相手の心の深さに応じて自己を開示するという。改めて、援助する側の大人のあり方、語られる事実を素直に聴きいることの意味を、考えさせられた調査であったと思う。

最後に、個人の過去に触れるという体験を快く受け入れてくれ、貴重な時間を割いてくれた青年達に心から感謝の意を表したい。

#### 【参考文献】

- 「愛はすべてではない」 B. ベッテルハイム  
村瀬孝雄・嘉代子訳 1968 誠信書房  
「中学生の心とからだ」  
村瀬孝雄著 1996 岩波書店  
「心理療法のかんどころ」  
村瀬嘉代子著 1998 金剛出版  
「子どもと家族への統合的心理療法」  
村瀬嘉代子著 2001 金剛出版  
「統合的心理療法の考え方」  
村瀬嘉代子著 2003 金剛出版  
「生活の中の治療」  
西澤 哲訳 1992 中央法規出版



- 「インフォームド・コンセント」  
森岡恭彦著 1994 NHKブックス  
「新・児童福祉施設と実践方法  
—養護原理のパラダイム—  
北川清一編著 2000 中央法規出版  
「治療関係における信頼の基礎—  
『知る』ことと『伝える』こと」 佐々木正美  
大正大学カウンセリング研究所紀要 No. 21  
「思春期 こころのいる場所」  
青木省三著 1996 岩波書店  
「被虐待児の治療とケア」  
奥山真紀子 1997 臨床精神医学 26  
「緊急特集 児童虐待」臨床心理学 1 巻 6 号  
2001 金剛出版  
「児童養護施設児童の育ち直りの援助方法の研究  
～青年期のアイデンティティの形成を支える要因分析を中心～」  
国分美希著 大正大学大学院 修士論文

(追補資料) 施設職員へのアンケート調査

「子どもの出自・家族情報へのインフォームドコンセントのあり方に関して」

1. 初めに、あなたの簡単なプロフィールについてお聞かせ下さい。

- ①性別 (男・女)  
②現在の年代 20代前半、20代後半、  
30代前半、30代後半、  
40代前半、40代後半、  
50代前半、50代後半、  
60代  
③勤務年数 (年 月)  
④取得している資格(複数可)  
保育士、児童指導員、社会福祉士、調理師、栄養士、教員  
免許資格、臨床心理士、その( )  
⑤仕事の内容 ( )  
⑥最終学歴 社会福祉系の大学、社会福祉系の短大・専門  
学校、心理学系の大学、それ以外の大学・  
短大(専門: )

2. あなたが、現在の施設に勤務されてから、これまでの間で特に印象に残っているできごとについてお聞かせ下さい。子どものことに限りません。どんなことでも結構です。

- ① 良い意味で  
② 悪い意味で

3. 施設の子どもへの「インフォームド・コンセント」についての考え、ご意見をお聞かせ下さい。

- ①施設で暮らす子どもにとって、自分の親・家族の状況について、或いは施設で暮らす理由について知りたいと願う子どもは多いと思います。子どもからこのようなことについて、話をされたり、尋ねられた経験がありましたらお聞かせ下さい。(複数回答可)

- a) 内容  
ア. 親の情報 イ. 家族の情報(兄弟・祖父母等)  
ウ. 自分の出生に関して エ. 家族についての悩み  
オ. 施設で暮らす理由 カ. その他( )

\*差し支えなければ、上記の内容について具体的にお聞かせ下さい。( )

- b) 場面 (職員と一対一、又は集団時)  
ア. 就寝時(一・集) イ. 食事中(一・集) ウ. 遊んでいる時(一・集)  
エ. 外出時(一・集) オ. 他の子どもの親や家族の面会時等(一・集) カ. その他

\*差し支えなければ、上記の内容について具体的にお聞かせ下さい。( )

②子どもに自分の出生や家族、施設で暮らす理由について尋ねられ、返答に困った経験があればお聞かせ下さい。できればその理由もお聞かせ下さい。(場面、事柄、対応等)

③子どもが出生や家族について知りたがっている、何か伝えた方がよいかと迷われた経験があればお聞かせ下さい。そのように感じられた経験は、子どもにとってどのような時期、状況だったでしょうか?差し支えなければ、その時、どのようにされたのかも聞かせ下さい。

④子どもに出生や家族についての事実を何らかの形で伝えることは必要だと思いますか?できればその理由もお聞かせ下さい。

- (a)必要 ( )  
(b)必要ない( )

⑤子どもに上記の件で、事実を伝えるとしたら、どのような条件、配慮が必要だと思いますか?また、だからその事実を伝えることが適当だと思いますか?

⑥親や家族の様々な事情から施設で生活することを余儀なくされている子ども達は、施設で生活することや将来をどのように考え、受け止めているのでしょうか?子ども達が、施設の生活に安心感を持って、自分の将来への希望を抱けるようになるためには、どのような情報や説明を子ども達にしていくことが大切であると思われますか?

4. 子どもとの愛着形成(或いは信頼関係)についてのご意見をお聞かせ下さい。

①親との愛着形成に問題を抱えている子どもが増えています。子どもが施設の中で「自分の居場所がある=受け入れられている」と感じられることは、子どもの心に安心感をもたらします。そのために、あなたが工夫をされていることがあればお聞かせください。

②特別に関係作りに工夫やエネルギーを使った(使っている)お子さんがいれば、お聞かせ下さい。

(a)どのようなお子さんですか?  
入所理由) ア. 被虐待(身・心・ネ・性) イ. 養育困難  
(どのような ) ウ. 置き去り エ. 措置変更  
( ) オ. その他( )

家族形態) ア. 両親家庭 イ. 単身家庭(父・母)  
ウ. 再婚家庭(実父・実母) エ. 不明 オ. その他  
( )

性別・年齢) (男・女)  
(幼児、小学生1-3年、小学校4-6年、中学生、  
高校生、その他 )

特別の理由)  
(b)関係作りの工夫について

(c)関係がある程度築けたかなと実感できた要因と要した期間

(d)関係作りの中で、印象に残っていること  
ア. 良い意味で  
イ. 悪い意味で

5. その他 なにかあればご意見をお聞かせ下さい。